

アレルギー教室のご案内

すべて集合形式となります。
下記のQRコードから参加申込をお願いします。

乳幼児
スキンケア教室

1月24日(水)
13:30

防災教室
(災害時の対応等)

2月26日(月)
15:00



喘息教室

3月22日(金)
15:00



お問合せ

担当課:企画総務課 担当者:吉岡
TEL 0744-32-8800

✉ kikaku1@kokuho-hp.or.jp

受付時間:平日9:00~17:00

参加無料



職員募集

1. 正職員

職種:①事務職員 ②看護師 ③介護福祉士

2. 会計年度任用職員

職員:①看護師 ②言語聴覚士 ③介護福祉士
④保育士 ⑤看護助手 ⑥薬剤助手
⑦調理員

※会計年度任用職員とは、従来の非常勤職員に変わる職員です。
地方公務員法が適用される一般職の地方公務員で、
任期は一会計年度内(4月1日~翌年3月31日)となります。

3. 採用予定日

令和6年4月1日

(正職員②③については要相談)

4. 受付期間

令和6年1月12日(金)まで

(正職員②③については要相談)

◎詳しくはホームページを
ご覧ください。



外来診療案内

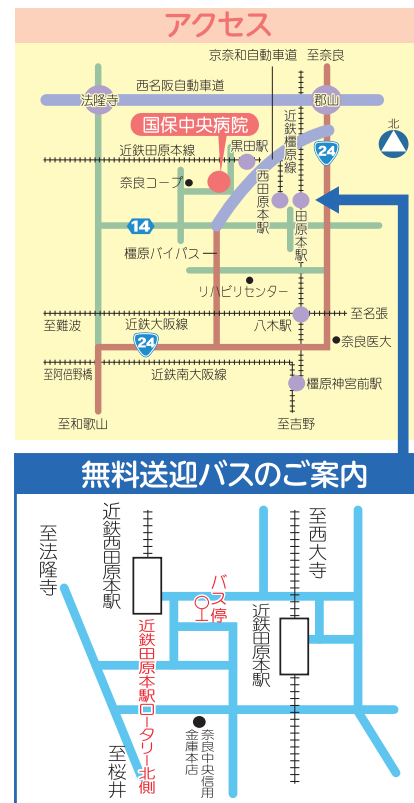
※赤字は女性医師です。令和5年12月1日現在

診療科		月	火	水	木	金	土
内科	一診	吉川	竹田	吉川	竹田	吉川	担当医
	二診	竹田	松永	澤田	高井	塩山	—
	三診	尾山	中村	小嶋	渡邊	中村	—
	四診	澤田	堂原 (肝臓外来)	野木 (循環器)	—	小嶋	—
	五診	石原 (循環器)	—	—	—	—	—
	午後	—	—	小嶋(禁煙外来)	—	—	—
外科	一診	—	—	—	—	第1・第3田村 (心臓血管外科)	吉川 (第3のみ10時~)
	二診	明石	杉森	尾原	明石	杉森	尾原
整形外科	一診	佐本	荒木	佐本	片山	吉良	担当医
	二診	吉良	森田	三島	—	米田	—
	三診	—	—	吉井	—	—	—
小児科	一診	阪井	中農	飯田	高川	奥本	担当医
	二診	飯田	高川	(高川)	中農	阪井	担当医
	午後	—	予約外来 (慢性疾患) 予防接種	予約外来 (慢性疾患) 予防接種	予約外来 (慢性疾患) 予防接種	予約外来 (慢性疾患) 乳児検診	—
	アレルギー外来 午後(完全予約制)	—	—	中農	中農	—	—
泌尿器科		望月	望月	望月	望月	中井	望月
皮膚科		—	小川	篠田	西村	—	—
緩和ケア科(ホスピス外来)(完全予約制)		中村	山本	—	—	山本	—
緩和ケア外来(完全予約制)		—	杉森	杉森	—	—	—
心療内科(精神腫瘍科)(完全予約制)		—	—	—	四宮	—	—

診療受付時間 初診は午前8:30から午前11:00まで
再診は午前8:00から午前11:00まで
※泌尿器科診療開始時間は9:30からとなります。

休診日 第2・4土曜日、日曜日、祝日
12月29日~1月3日 年末年始休暇

※受付時間以外の時間帯で診察を希望される場合、お電話等にてお問い合わせください。
※リハビリテーション科は当面は院内患者様に限らせて頂きます。※担当医は変更となる場合があります。



■バスの時刻表は、ホームページをご覧ください。
■近鉄田原本駅・西田原本駅下車、無料送迎バス利用 約8分
■近鉄黒田駅下車、徒歩約10分

編集発行: 国保中央病院(広報誌編集委員会)
発行部数32,750部

◆広報誌「さわやか」についてのご意見・ご感想を募集します◆

今後の広報誌作成の参考にさせていただきたいので、皆様のお声をお聞かせください。(いただいたご意見等への個別回答は行いません)
国保中央病院ホームページの「お問合せ」よりお寄せください。
皆様のお声をお待ちしております。

お問合せフォームQRコード
※内容に「さわやか」の件と
ご記入ください。



国保中央病院 広報誌

KOKUHO CHUO HOSPITAL

さわやか



目次

院長あいさつ	1
女医さんのいる病院ってある?	2・3
花粉-食物アレルギー症候群 (Pollen-Food Allergy Syndrome:PFAS)について	3
【お知らせ】	
アレルギー教室のご案内	4
正職員・会計年度任用職員を募集しています	4
国保中央病院への交通手段	4
外来診療表	4
広報誌へのご意見・ご感想	4

基本理念

医療の質を高めることにより、地域住民の皆様の健康保持と増進に寄与し、住民の皆様に信頼され、愛される心温かな病院を目指します。

新年のご挨拶

国保中央病院 院長 佐本 憲宏



新年明けましておめでとうございます。

磯城郡川西町、三宅町、田原本町および北葛城郡広陵町の皆様方には、よいお正月を迎えられたことと存じます。

すでに5年目をむかえた新型コロナウイルス感染症ですが、まだなお病院では、国から確保病床を3月まで継続と指示されております。しかし、それも間もなく終了し、病院も日常を取り戻すことになりそうです。今後、新型コロナウイルス感染症だけでなく、新興感染症が到来したとしても、今回の感染対策が大きく生かされていくものと思います。

また、新型コロナウイルス感染症対策として休床としておりました、6階地域包括ケア病棟は全面改修を完了し、令和5年7月より、快適な新しい環境で、自宅退院に向けたリハビリテーションを中心とした診療をすでに開始しております。外傷後や、さまざまな疾患の罹患後に低下した運動機能を回復させるために、短期的なリハビリ入院も実施しております。

これまで延期や中止となっておりました地域住民公開フォーラムや健康フェスティバル、院内コンサートなどもすでに再開しております。

当院は消化器病センターと小児のアレルギーセンターを開設しており、さらに整形外科では手の外科と足の外科の専門的な手術も行っております。これらに関してもさらなる充実を図っていき、今後は皆様に、広報誌のみならず、FACE TO FACEでの、住民の皆様を対象とした講演会などで、生のご意見をお聞きし、今後に生かしていければとも考えております。

今年もすべての診療科、各部署において、国保中央病院での診療に十分にご満足いただける体制をとり、住民の皆様に信頼され、愛される病院としてすべての職員一同で日々ますますの努力をしていく所存です。

皆様のご理解と一層のご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。



国保中央病院



訪問看護ステーション

＼ 女医さんのいる病院ってある？ ／

あります！国保中央病院です！

内科部長 塩山 えりか

現在、医学部生の約3分の1が女性であると言われています。しかし、実際の医療現場では、まだまだ男性医師の割合が圧倒的に多いのが実情です。

そんな中、現在、国保中央病院では、多くの女性医師が勤務し、活躍しています。なんと、内科においては、常勤医師の半数以上が女性医師です。



内科

塩山、松永、高井、小嶋、中村医師が在籍しており、消化器疾患を専門としながら、内科全般の診療を行っています。外来診察だけでなく、胃や大腸の内視鏡検査や胆膵内視鏡検査、早期胃がんの内視鏡治療等も行っています。大腸内視鏡検査は女性医師が担当することが多くなっています。

例えば、潰瘍性大腸炎という慢性炎症性腸疾患は、10～20歳代で発症することが多く、女性の場合、治療中に、受験や就職、結婚、妊娠、出産、育児と様々なライフイベントを迎えることも多くあります。当院の女性医師は、妊娠や出産等を経験している者も多く、患者さんの病状とともに、環境面の変化からもたらされる様々な悩みに寄り添いながら診療を行っていきたいと考えています。

外科

杉森医師は、消化器・乳腺領域の疾患を専門としています。近年、乳がんや大腸がんの増加が背景にあり、女性医師の診察を希望して受診される方も多くみられます。

小児科

2名の女性医師が在籍しており、小児科全般の診療を行いつつ、それぞれに特殊外来を担当しています。

中農医師はアレルギー分野の診療を行っており、食物アレルギーについて、どれくらいの量まで摂取可能なのか、代替食品の提案、離乳食のすすめ方、スキンケア指導等、一人一人のお子さんに丁寧な指導を行っています。

飯田医師は内分泌分野を担当し、低身長や低体重、思春期早発症を心配されるお子さんの診療や相談を受け付けています。女兒の診察においても、安心して受診していただけるかと思います。

整形外科

米田医師は小児整形外科を専門としており、发育性股関節形成不全（以前は先天性股関節脱臼と呼ばれていました）や内反足など、小児特有の整形外科疾患の診療も行っています。

緩和ケア科

2023年4月から新たに山本医師が着任しました。患者さんやご家族の不安に寄り添って苦痛を緩和し、大切な時間をできる限り快適にお過ごしいただけるよう診療を行っています。

その他にも、循環器内科では石原医師、皮膚科では西村医師が診療を行っています。

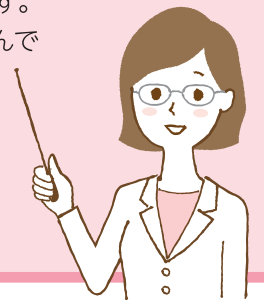


女性医師が多くて大丈夫なの？と思われることがあるかもしれません。

実際、子育て中の医師が多く、子どもの急な病気や送り迎え、参観や運動会等で早退したり休んだり、バタバタする場面も多いです。しかし、お互いの状況を理解して協力しやすい環境になっていると思います。また、最近では男性医師も積極的に子育てに参加する場面が増えており、同じような状況が起こります。

当院では医師同士がしっかりとコミュニケーションをとり、協力しながら診療に取り組んでいますので、安心して受診いただければと思います。

「女性医師の方が話しやすいな。」「診察は女性医師がいいな。」「大腸の検査は女性医師にやってもらいたい!」という患者さんは、ぜひ当院をご利用ください。



花粉-食物アレルギー症候群 (Pollen-Food Allergy Syndrome:PFAS)について

小児科主任部長 中農 昌子

最近、花粉-食物アレルギー症候群(Pollen-Food Allergy Syndrome:PFAS)といって、花粉症を発症した頃に食物アレルギー(果物や野菜)を発症する患者さんが増えています。



症状・原因

原因食物(果物・野菜など)を摂取した直後から1時間以内に、唇や舌、口腔咽頭粘膜のかゆみや刺激感(イガイガ、チクチク)が出現します。唇・舌・のどなど、口の症状が特に出やすいために「口腔アレルギー症候群(Oral Allergy Syndrome : OAS)」とも呼ばれます。嚥下(ゴックン)された後は、消化によりアレルゲンが変化して症状を起こしにくい状態になるため、主な症状は口の中にとどまる場合が多いのですが、鼻症状(鼻腔のかゆみ、くしゃみ、鼻汁、鼻閉)、眼症状(流涙、眼球結膜の充血や浮腫)、耳症状(耳孔のかゆみ)、皮膚症状(眼瞼顔面の浮腫、全身性蕁麻疹)、消化器症状(腹痛、嘔気嘔吐、下痢)、呼吸器症状(呼吸困難、喘鳴、喉頭浮腫)が現れ、アナフィラキシーショックに陥ることもあります。

花粉アレルギーのアレルゲンと果物・野菜に含まれるアレルゲンが似ている(交差抗原性がある、といいます)ために、花粉症の人が果物・野菜アレルギーにもなってしまうのです。花粉症の原因となる植物は複数ありますが、カモガヤ・ハルガヤなどイネ科の花粉(3～11月頃に飛散)ではメロン・スイカ・キウイ・トマトなどに反応が出やすく、ハンノキ・シラカバなどカバノキ科の花粉(春に多く飛散)ではリンゴ・モモなどバラ科の果物や豆乳などの大豆製品で症状が出やすくなります。植物の種類と症状が出る果物・野菜のペアが決まっているのも、このアレルギーの特徴です。

検査・診断

問診した内容を参考にして、血液検査、皮膚検査(プリックテスト)、食物経口負荷試験などを行なって診断します。

治療

PFASの治療は、抗ヒスタミン薬やステロイド薬などの薬物療法が主な治療法です。また、果物・野菜は加熱・調理することで、アレルギー反応を軽減することができます。ただし、加熱によってアレルギー反応が軽減されない場合もあり、アナフィラキシーの既往がある場合や、重篤な症状を誘発する食品については厳格な除去が必要です。

花粉症と果物・野菜アレルギーの両方の症状がある場合は、PFASの可能性があるのでアレルギー科で診断を受けることをおすすめします。

